



歯科由来の全身疾患

病巣感染って何？

No.61

病巣感染とは

身体のどこかに**慢性の炎症性病巣**があり、それ自体はほとんど症状が出ていない、もしくは軽い症状を呈する程度であるのに、病巣から離れた場所に障害、すなわち二次的疾患を起こす事を病巣感染といいます。歯科で関係があるのが、お口の中の病巣により体のどこかに二次的疾患が引き起こされる可能性です。

では、お口の中の病巣にはどのようなものがあるのでしょうか？

- ① 扁桃腺炎
- ② 歯周病（歯肉炎・歯槽膿漏）
- ③ 根尖性歯周炎（むし歯由来の歯の根の中の炎症）

歯科では、②と③が対象となります。お口の中には元々細菌がたくさん存在しています。そのバランスがくずれ、細菌が増加し、歯の溝の中、歯と歯肉の境目に侵入してくると、むし歯や歯周病となります。そのむし歯は進行すると、歯の中の神経にまで細菌が感染し、それが根の先あたりに膿の袋をつくった状態を、根尖性歯周炎といいます。このような歯周病・根尖性歯周炎が**慢性の炎症性病巣**となり、細菌が大量に生産され、体の中へ毒素を送り出す拠点となるのです。



どんな疾患を引き起こすのか？

お口の中の病巣により引き起こされる問題としては

- ① 腎疾患
- ② リウマチ性疾患（リウマチ熱・リウマチ性関節炎）
- ③ 皮膚疾患
- ④ 心内膜症
- ⑤ 胃潰瘍
- ⑥ 低体重児 ・ 早産

などが挙げられます。ではなぜ、離れた臓器にこのような疾患を引き起こすのでしょうか。詳しいことはわかっていませんが、以下のことが考えられています。

- 細菌が病巣から血管を通して、他の部位に住み着く
- 細菌の毒素、代謝産物が血管を通して体内を巡り、沈着する事による感染防御反応
- 細菌、細菌の死骸、毒素、代謝産物に対するアレルギー反応
- 病変からの持続的な刺激による神経系の過剰な反応

以上のような、病巣からの他臓器への感染のリスクを減らすためにも、まず出来ることとして、かかりつけの歯科医院において、むし歯や歯周病の治療をきちんと最後まで受けていただき、**慢性の炎症性病巣**をなくしていく事が大事になります。

そして、その再発防止や経過を追うためにも、定期的な検診も大切です。

お口の健康、そして全身の健康を目指しましょう。



社団法人

柏歯科医師会

Http://www.kamukamu.or.jp

Email : kda@kamukamu.or.jp

